

平成27年度 学校評価実施報告書

3 2回目評価

<div> ・重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にわらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定 </div>						自己評価		学校関係者評価	
						評価日	平成28年3月1日	評価日	平成28年3月3日
						評価者・組織	学校評価委員会	評価者(いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
	分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果	分析 (成果と課題)	自己評価に 対する改善策	学校関係者評価に よる意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
1	確かな学力	基礎基本の定着を図る取組 読書習慣の定着 教え合い・話し合い活動の充実	少人数授業の授業改善 地域連携した検定の実施 朝読書の継続 図書館教育の充実	学プロ・全国学テの結果 学校生活を通じて読書に したしむようになってきた グループ学習のような 生徒主体の学習活動が 展開されている	理科を除き、全国学テで平均を上回る。学プロでは全市平均より、どの学年も数学は高く、他はほぼ平均並みとなっている。 朝読書の定着は十分であるが、36.7%が否定的な回答となっており、学習規律が保てない教科担当者への研修が課題である。ALを実践するための「学びの共同体」の取組は成果であるが、教師によって、十分に生かされていないことは課題である。	⇒	学力向上にむけて、個々教師力の努力の必要性は言うまでもないが、「学びの共同体」の取組の継続により、さらなる授業力向上をめざしていく。図書委員会の活動を活性化するとともに、授業での図書館利用をさらに推進していきたい。みらスタをさらに充実させて、学習に遅れがちな生徒の学習を保障していく。	⇒	・学力向上の取組については、評価できる。授業の充実をさらに進めてほしい。 ・家庭学習を充実させる取り組みが必要ではないか。 ・スマホ等が学習の妨げとなっている。使い方を規制するように保護者に
2	豊かな心	積極的な生徒指導の取組 体験活動の充実 自己の役割を認識し、集団の向上を図る	自己理解と自己受容につながる道徳・学活の工夫 「総合的な学習の時間」の再構築 学校行事・学級活動の充実	私は学校のルールをしっかりと守れている 松原中学校には、体験的な学習が準備されている 自分たちの手で学級活動や生徒会活動などの自治活動が行えている	学年進行とともに、否定的な数値は上昇するものの、平均では、10.2%であった。 伝統文化教育を中心に地意見的な学習に取り組み、否定的な回答は、22.9%であった。 学校祭の成功など充実してきたと思われるが、否定的な回答は、18.2%であった。	⇒	校内でのアンケート集計結果より、積極的な生徒指導の効果は、現れ始めている。ただ、思いやりや寛容という面が弱く、人間関係のトラブルが発生したこともあった。学校祭等は、集団の質を高め、社会性を高めることに繋がったと考えている。規範意識は高まってきているものの、学年によって、その成長割合に差があることは課題である。	⇒	・規範意識について、さらなる向上を図るため、すべての学級でクマナを活用した学級づくりをさらに進めていく。道徳教育の充実を図っていくため、道徳教育推進月間での取組をその契機としていく。伝統文化教育の指定校として、体験的な活動を重視した取組を通して、感性や情操を育てていく。
3	健やかな体	自己の生活習慣を見直し、改善する取組 健康な体づくり	保健委員会の取組の充実 保健だよりの発行	学校は自分の健康に関する情報を適切にかんんでいる 身体測定の特徴的な結果	否定的な回答が25.3パーセントであった。観察より保健委員会の活動は活発だった。 保健だよりは定期的に発行された。また、肥満傾向は全市と同じ程度で、視力異常の率が全市平均より少し高い。	⇒	部活動の活性化や欠席数の減少などは、成果と考えている。テレビの視聴時間とスマホやテレビゲームの使用時間がアンケート結果より、他校よりかなり長いことがわかった。視力異常等への問題と生活習慣の改善が必要である。	⇒	・家庭生活において、スマホ等の使用時間等について、保護者や生徒に見直してもらうための啓発活動を行っていく。また、検診の結果を活用して、視覚異常等の改善を促すため、保健だよりを充実させていく。
4	独自の取組	小中一貫教育・地域連携の推進 情報発信の充実 学級経営力の向上	三校校長会を中心とした連携強化 積極的なホームページの更新 学級の状況を把握した学級経営	地域・保護者・学校の協力関係の観察 保護者アンケート「プリント等で、学校からの情報が保護者に伝わること」 クマナシートの分析	三校校長会とともに保幼小中連携会議を年3回実施で、連携を強め 肯定的な回答が68.6%で前回より8ポイント向上した。 クマナの実施により、各学級で課題が明確になった。活用をさらに促進しなければならない。	⇒	三校合同の学校運営協議会の実施や保幼小中連絡協議会の活性化は、地域連携に大きく役立った。また、HPの更新も多くでき、学校での様子をしっかりと発信できた。学級経営力は、担当者によって、かなりの差が見られたので、この向上にむけて、さらに改善が必要である。	⇒	・小中一貫教育や地域連携は、前年度に比べて活性化されてきているので、これを継続していく。とくに、伝統文化教育の推進するなかで、これらのことを推進させていくことが重要であり、この方向で取り組んでいく。「学級・学年だより」とともに、HPの更新と「学校だより」等の発行を継続発展させていく。クマナの分析結果をさらに活用していく。

学校名(京都市立松原中学校)

4 総括・次年度の課題

- ・みらスタ・土曜学習・検定試験等の実施については、効果があるものとして継続していく。学力向上について、授業の充実を目指していくとともに、家庭学習をさらに定着させることに取り組んでいく。
- ・伝統文化教育など本校の特色について、様々な場で発信してきたので、保護者や地域に一定の理解が得られている。また、これについての協力も得やすくなった。
- ・小中一貫教育を推進する中で、学校評価についてもアンケート等で連携する必要だと考えている。
- ・保幼小中連携会議のさらなる活性化を推進し、地域連携と繋げて、地域の小中学校として教育力を高めていきたい。